

財団法人日中医学協会
2004年度共同研究等助成金－日本人研究者派遣－報告書

2004年 9月 5日

財団法人 日中医学協会 御中

貴財団より助成金を受領して行った訪中交流について報告いたします。

添付資料： 訪中報告書

受給者氏名： 竹内登美子



所属機関名： 岐阜大学

所属部署： 医学部 職名： 教授

〒501-1193

所在地： 岐阜市柳戸1-1

電話： 058-293-3244 直通 内線： 3244

1. 助成金額： 20 万 円

2. テーマ

Evidence Based Nursingに基づいた呼吸理学療法

3. 成果の概要（100字程度）

北京首都医科大学附属朝陽病院と北京呼吸器疾病研究所主催の、第3回全国「気道管理および人口呼吸器装着患者のケア学習会」にける招聘講演を行った。100名を超える参加者との質疑応答や、北京首都

医科大学附属朝陽病院の看護師・理学療法士らとの意見交換会等を通して、お互いの国の看護事情や専門的知識等を深めることができた。

4. 招聘機関

機関名： 北京首都医科大学附属朝陽病院 代表者名： 王辰 職名： 院長

所在地： 北京市朝日区白家庄路8号

5. 滞在日程概要（日付、主な旅程・行事等）

8月23日 北京到着

8月24日 同時通訳者との打合せ、プレゼンテーション資料作成（中国語版）

8月25日 講演 病院見学 病院看護部との意見交換会・懇親会

8月26日 万里の長城 北京市内の見学

8月27日 北京出国

Evidence Based Nursing に基づいた呼吸理学療法

招聘講演者氏名 竹内 登美子

所属 岐阜大学医学部看護学科

要旨

肺理学療法から呼吸理学療法という用語が使われるようになった経緯と、用語の定義について説明し、新しい呼吸理学療法としての「体位呼吸療法」を紹介した。また、根拠に基づいた看護 (EBN) とは何か、EBN を看護実践に活用するための方法について紹介した。

Key Words ICU、呼吸理学療法、EBN

緒言：

本内容は、北京首都医科大学附属朝陽病院と北京呼吸器疾病研究所主催の、第3回全国「気道管理および人口呼吸器装着患者のケア学習会」における招聘講演の概要である。

対象：

中国全土から集まった中国人ナース約 100 名

開催場所：

北京市京東ホテル

講演概要：

1. 学習目標

- ① 新しい呼吸理学療法の概念について理解する
- ② 根拠に基づいた看護 (EBN) を実践する意義を理解する
- ③ 根拠に基づいた排痰法 (咳・体位変換等) を理解する
- ④ 呼吸理学療法の基礎を理解する (ビデオ映像)

2. ICUにおける呼吸理学療法とは

「意識低下があっても、人工呼吸器を装着していても、日常的で自然な肺と身体の動きを持続させ、肺胞換気を良好な状態に維持すること」

肺理学療法→胸部理学療法→呼吸理学療法 RPT : Respiratory Physical Therapy

1996年 呼吸療法認定士制度の確立

3. ICU (急性疾患・術後患者) における呼吸理学療法の特徴

- ① 支援的な治療法
- ② 患者の忍耐や努力を強要しない
- ③ 全ての患者が対象

4. 根拠に基づいた看護 (EBN) とは

- EBN : Evidence Based Nursing
「最善の根拠を患者の価値観・意向、臨床経験等と統合する事」
医学・科学文献の批判的検証評価法を発展させたもの

- EBN 実践時の 4 要素
 - ①利用可能な最善の科学的根拠 (研究結果)
 - ②患者の価値観や意向
 - ③臨床家の専門的な技術や知識
 - ④コストや人的資源など

5. EBN の実践法

- ①看護上の疑問を明確にする
「誰に、何をしたら、何と比べて、どうなのか」
- ②最善の根拠を文献から探す
- ③根拠 (研究結果) の妥当性と有用性について吟味する
- ④吟味した結果を EBN 実践時の 4 要素に基づいて看護実践に適応する
- ⑤実践結果を評価する

6. EBN のレベル

AHCPR : Agency for Health Care Policy and Research

米国保健政策局によるエビデンスレベル (1989 年, 1996 年)

- I a : 複数のランダム化比較試験のメタ分析による
- I b : 少なくとも 1 つのランダム化比較試験による
- II a : 少なくとも 1 つのよくデザインされた非ランダム化比較試験による
- II b : 少なくとも 1 つの他のタイプのよくデザインされた準実験的研究による
- III : 比較研究や相関研究, 症例対照研究など, よくデザインされた非実験的記述的研究による
- IV : 専門委員会の報告や意見, あるいは権威者の臨床試験による

7. 文献検討の例 (例 1 の表 参照)

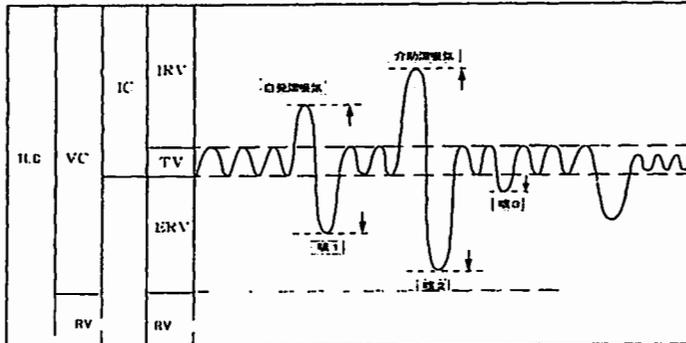
8. 根拠に基づいた排痰法 (咳・体位呼吸療法の図 参照)

【例1】呼吸理学療法を実施した群と実施しなかった群との比較研究

筆者	EBN	目的	研究方法	測定項目	結果
Fagevik (1997)	I a	腹部手術を受ける患者の呼吸理学療法の効果を評価	・術前呼吸訓練と早期離床の指導 ・術後1時間毎の咳と深呼吸	SaO ₂ 体温 肺音 胸部X-ray	実施群の合併症発生率が有意に減少
Chumillas (1998)	II a	同上	・術前呼吸訓練 15分/日 ・術後呼吸訓練 4回/日 ・体位ドレナージ	SaO ₂ 術後スパイロメトリー 胸部X-ray	同上

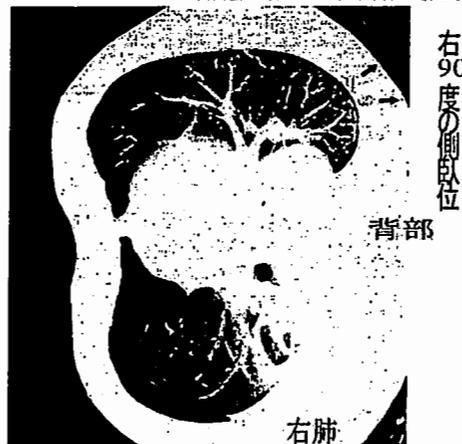
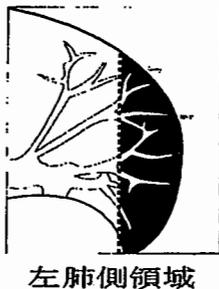
参考：排痰法（咳）の呼気流速

* 気道の分泌物移動を促進することができる呼気流速は、時速40km～90km 丸川征四郎著「ICUにおける新しい肺理学療法」から引用



【例2】下側肺障害のある患者を腹臥位にする呼吸管理法は有効か？

丸川征四郎著「ICUにおける新しい肺理学療法」から引用



9. 研修会日程表

第3回全国「気道管理および人工呼吸器装着中患者のケア学習会」講義予定表

日付	時刻	講義内容	講義者
1日目	9:00-11:30	呼吸器ICUの運営と管理	王 辰 (院長)
	13:00-16:30	慢性呼吸不全の治療原則	張洪玉 (医長)
2日目	8:30-11:30	人工呼吸器の設定	王 辰 (院長)
	13:00-16:30	気道確保法及び管理	李春燕 (看護部長)
3日目	8:30-11:30	ICU病棟における感染予防	鈴
	13:30-16:00	ICUで用いる呼吸理学療法とEBN	竹内 (教授)
	16:00-16:40	蘇生バックの使い方	夏
4日目	8:30-10:00	非侵襲的換気療法	詹庆元
	10:10-11:30	人工呼吸器装着中患者のケア	李
	13:30-15:00	非人工気道の吸引法	崔
	15:10-16:30	ネプライザー方法	崔
5日目	8:30-10:00	動脈採血の技術及び血液ガス分析	劉
	10:10-11:40	人工呼吸器の準備、点検	夏

主な参考文献

- 1) 丸川征四朗著:ICUにおける新しい肺理学療法 メディカ出版 2001
- 2) 福井次矢編集:EBNと臨床研究 中山書店 2003

作成日:2004年9月5日